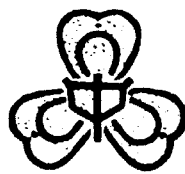


友よ!



東京・石中会だより

創刊号

平成17年9月

発行 東京・石中会広報委員会 事務局/〒349-0115 蓮田市蓮田270 Tel. & Fax/048-769-7443

石中訪問の感動記 「素晴らしい母校、

万歳！」

鈴木 健司（8回生）

心を持ち続けるに違いない。

こうした生徒達がいることを思えばなお更のように、私達卒業生は母校のために何か恩返ししたいとの感を強くした母校訪問であった。

最後に、東京・石中会の会員の皆さんには、石巻に帰郷された折に是非母校を訪問し、明るい生徒達とお会いすることをお勧めするが、決して期待を裏切られることはないと思っている。

である。それは、私達が予期しないものであっただけに、清しさを超え、感動（これは決して誇張ではなく、私達3人とも同感であった）すら覚えた瞬間であった。

昨年、新聞やテレビでは「校内暴力」「いじめ」「引きこもり」「登校拒否」「家庭内暴力」「援助交際」はたまた「少女少女による殺傷事件」といった活字や映像で、青少年の無気力さや暴力について連日報道しておりやり切れなさや悲しさで胸が痛む。こうした状況のなかで、石中の生徒のこの爽やかさはどのように育まれたのだろうか。

社会、家庭、学校の三者の連携によるものだろうが、一番の原動力は、学校の先生達の並々ならぬ努力の成果だったのではなからうか。そう思う根拠は、校内を案内して頂いた校長先生自ら生徒達に明るく声を掛けるのに応えて、生徒達は臆する（私達は当時そうであった）ことなく、挨拶を返していた情景をみたからである。校長先生はじめ全ての先生方は、生徒達と正面から向かい合って話し合うことを長年に亘って続けてこられたことは、想像に難くない。

生徒達もやがて中学を卒業し、進学そしてやがて社会人となることになるが、この素晴らしい挨拶ができる環境で学んだ生徒達は、いつまでも感謝と協調の

私達が校舎内を移動している

時生徒達は丁度当日の授業が終わり帰り支度を始めていた。

私達とすれ違う大勢の生徒達の誰も「こんにちは」「さようなら」と明るく、大きな声で

私達に挨拶をしてくれた。それは、単なる儀礼的なものではなく、心底から気持ちを入り込めて

ものであったと感じたのは、しつかりこちらに目を向けていたこと、そしてなによりも彼らの

素直な笑顔がそこにあったから



石巻中学校・新校舎



旧校舎

NEW ISHINOMAKI



1市6町合併で人口17万人の「新・石巻市」誕生 石巻広域圏は石巻市、東松島市、女川町の2市1町

平成17年4月1日に石巻市、河北町、雄勝町、河南町、桃生町、北上町、牡鹿町の1市6町が合併し、新しい「石巻市」が誕生した。同日、矢本町、鳴瀬町が合併して、「東松島市」が誕生し、これにより、石巻広域圏は、石巻市、東松島市、女川町の2市1町にて新たなスタートを切った。

かつての活気を取り戻す工夫を！

石巻市は、古くから水産業や石巻圏域の工業の中心都市として発展してきたが、最近、食料品、飼料、木材、紙パルプ等の素材型製造業の出荷額が低落傾向にあり、加えて人口も過疎地帯と言われるほど減少が続いており、市の産業に大きな影響を与えている。石巻市の商業環境は、狭い道路と中心部の駐車場不足など車社会の進展に対しての基盤整備の立ち遅れが顕著で、郊外の大型店の進出により、ますます商店街はシャッター通り化となっており、久しぶりで訪れてみると、そのあまりの寂

しさに胸が痛む。当地域出身の石ノ森章太郎先生の萬画館を起爆剤としているのがみられるがそれだけで、はたして昔のあの活気に満ちた街の姿を取り戻すことができるのだろうか。

今回の合併は、単に行財政の効率化としてだけでなく、後述するように、編入した6つの町はそれぞれ素晴らしい観光資源を有しており、自然や伝統的郷土文化などをテーマとした新たな観光産業を起こすチャンス到来と捉えるべきと思われる。ただし、よく見かける観光地のようにはお土産店、見世物小屋のオンパレードだけではナンセンスと言わざるをえない。

石巻に在住し、日々市の活性化に腐心され、努力されておられる方々に、敬意を表すると同時に、故郷を離れて生活している我々にとって、石巻は活気に満ちた自然豊かな街であって欲しいと願って止まないことをお伝えしたい。

新しく石巻市に仲間入りした6町の横顔

終わりに、石巻市と合併した6町について簡単に紹介する。

河北町（人口13,000）

町は美しい自然に囲まれ、町の中央部にそびえる上品山（じょうぼんやま）からの眺望は、遠く奥松島や奥羽の山々を仰ぎ眼下にひろがる北上川流域には肥沃な水田地帯が大きく広がっている。

雄勝町（人口5,000）

金華山国定公園の牡鹿半島北側に位置している。町の特産品である硯は、600年の伝統と全国一の生産量を誇り、昭和60年に国の伝統的工芸品の指定を受けている。

河南町（人口18,000）

美しい田園風景が広がる町で縄文の遺産が伝わる歴史文化に囲まれた町でもある。県内有数規模の宝ヶ峰遺跡から発掘された縄文時代後期の貴重な土偶土器など多数展示している記念館がある。

桃生町（人口8,500）

北上川に囲まれた自然と歴史的伝統を持つ町で、大勢の踊り手が飛び跳ねるの身振りで踊る賑やかな豊年踊りと、古式豊かな神楽は、共に無形民俗文化財に指定されている。

北上町（人口4,500）

南三陸国定公園の南端に位置し、美しい自然に恵まれた町である。北上川が注ぐ追波湾は、わかめ、こんぶ、ホタテなどの養殖が盛んである。また、北上川河口の葦（ヨシ）原の大群落は、川を渡る風によって四季折々の曲を奏で1996年に「日本の音風景百選」の一つに選ばれている。

牡鹿町（人口5,000）

かつては日本の捕鯨の中心地で、現在はその捕鯨の歴史とクジラ文化を守るための記念館がある。国定公園に指定されている金華山と網地島は、年間50万人が訪れるレジャーアイランドとなっている。



会長挨拶

東京・石中会会長 秋月英真



今年の10月で、東京石中会は設立3年目を迎えることになりました。東京近郊に在住している市立石巻中学校卒業生の有志の間で、同窓会を設立しようという気運が生まれ、設立準備委員会が発足したのは平成14年春のことでした。以来、何度か会合を重ね、卒業生名簿や会則などを整備して、同年10月に設立総会の開催にこぎつきました。

本会の目的は「会員の親睦」と「母校への支援」の二つであります。故郷を遠く離れて暮らしている卒業生の名簿を整備し親睦の場を設け、会員の交流を進めております。また、母校との協議の結果、「在校生に対する卒業生の講演」という形で故郷への恩返しを実現することになりました。

その第1回が今年の5月、修学旅行で来京した3年生に対して、橋本照高さん（8年生）による講演が実施されました。東京石中会では、設立間もなく規模的にも財政的にも未だ多くの難問を抱えておりますが、目的に向かつて着実に進んでおります。この会の成長発展は、ひとえに会員の皆様の御支持にかかっております。これからも当会の趣旨に御賛同いただき御支援をお願いしますようお願い申し上げます。

「夢のある楽しい学校」をめざして

石巻中学校校長 木村昌雄



5月12日、修学旅行3日目の午前中に本校第8回卒業生で写真家の橋本照高氏から、写真家として接した有名人の若かりし頃の映像と挫折を乗り越えて栄光を掴むまでのエピソードを分かりやすくお話ししていただきました。体験に基づいた貴重なお話は生徒たちが自分の進路を考える上で大変参考になるものでした。また、講演の前から東京石中会の秋月会長さんをはじめ役員の方が4人も見えられて、石中の昔話とこれからの東京石中会の話に花が咲きました。

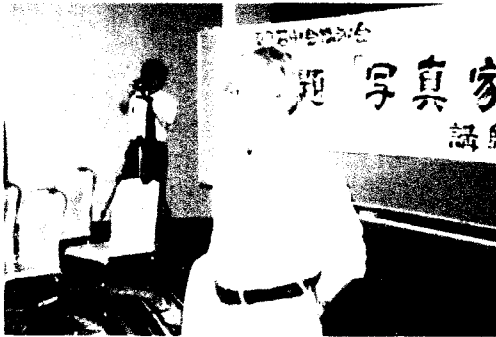
先日、東京石中会の井上広報委員長から、石中訪問の感動記『素晴らしき母校 万歳』と題した8回生の鈴木健司氏の文章が送られてきました。その中に「大勢の生徒たちの誰もが大きな声で私達に挨拶をしてくれた。それは、清清しさを越え、感動すら覚えた瞬間であった。」という一文がありました。そのような期待を裏切らないためにも、さらに生徒たちの力を伸ばしたいと決意を新たにしているところです。

石中では平成18年度のめざす学校像を「夢のある楽しい学校」とし、(1)生徒一人一人を大切に、

ならぬものはならぬと教えていきます。(2)教職員自身が夢を求め生徒と共に向上する努力をします。(3)学校の情報はできるだけ早く正確に伝えていきます。という三つの実践事項を学校便り「青き風」1号で示しました。生徒にとっても教職員にとっても保護者にとっても地域にとっても「夢のある楽しい学校」にしたいと思っています。東京石中会の皆様方のお力添えを是非お願いいたします。

後輩の修学旅行生へ 念願の課外授業

写真家・橋本照高氏
(8回生) 熱井！



母校の要請を受けて、東京石中会初の課外授業は、修学旅行で上京中の石巻中学校3年生112名を前に、5月12日（木）9時より浅草ビューホテル飛翔の間に於いて行われた。講師に立ったのは8回生・橋本照高さん。

『写真家として』を演題に、撮り溜めたタレント、有名人26人のスライドを通し、人には必ず自分を変える「人」との出会いがあり、また挫折した時、絶対負け犬にならない自覚をもって努力すれば、新しい道を切り開くことが出来ることを説く。中学3年生は、昔で言えば元服の年齢に当たる。悩みや不安を感じる年頃であるし、不安を感じるのは当たり前である。不安から逃げてはいけません。そんな時は、いろいろな本を読んだり、友達に相談したり、先生に相談すること。最後に、「ゴミを捨てない大人」になって欲しい、という言葉で締めくくる。

司会進行は、萩原梨奈さん（泉町3丁目）、講演後の感想は、鈴木詩織さん（泉町1丁目）、お礼の言葉は、千葉博君（泉町3丁目）。感心するほど、しっかりとした後輩達でありました。同行の木村民雄校長、3学年担当の三浦徹教諭には、準備等で大変お世話になりました。

※なお、講師の橋本照高氏が北上川・追波河口から岩手県岩手町の源泉までリヤカーを引いて今の北上川を旅した姿を描いたドキュメンタリー「北の大河」もひとつの北上川物語」は、去る5月3日、仙台・東日本放送局の開局30周年記念企画として放映され、多くの人に深い感銘を与えました。



楽しかった

「第3回 東京・石中会総会
皆さんもご出席を！」

第3回総会は、平成16年11月13日（土）、一昨年・昨年に続いて東京・有楽町にあるニユー・トーキーで開催。総会は、会計報告や役員改選等の承認を得て会員の親睦を深める宴会に入りました。スターバックスを日本に導入した功労者の一人、3回生・坂本武久氏の絶妙な司会でビンゴ・ゲームも盛り上がり、ビンゴをクリアして賞品をゲットした会員は、年齢を忘れて嬌声を発するほど。会場では思いがけず何十年ぶりでの親戚に再会するなど、同窓会ならではの場面もありました。今年の総会では、あなたの忘れかけていた素晴らしい友人や親戚にお会いできるかもしれません。皆さまもぜひ総会にご出席ください。

前回の総会に出席した会員は以下の34名の方でした。

- (3回生) 秋月英真 阿部剛
- 青沼義信 坂本武久 大木郁子
- 水澤昇 武山勝 秋保光子
- (4回生) 阿部剛夫 平山稔
- 森田享子 (5回生) 井上勝夫
- 上原藤三 鈴木恵美子 早川幸子
- (6回生) 藤澤俊 清水秀昭
- (7回生) 廣瀬知子 北川貴恵子
- 橋本洋二 (8回生) 橋本照高
- 首藤光春 鈴木健司 高嶋展廣
- 水澤春彦 水澤稔 菊地博
- (9回生) 飯田勝紀 伊藤幸子
- (12回生) 奥田捷治 西條修
- (13回生) 北島昭 (17回生)
- 西條充郎 (21回生) 阿部陽子

平成16年度・年会費ご協力者 (平成16年9月〜平成17年3月)

(3回生)	佐藤 玲子	梅沢 治子	角田 守弘	梅沢 歌子
青沼 義信	早川 幸子	関 春美	杉山 富子	高橋 真理
秋保 光子	鈴木 恵美子	橋本 照寛	石神 穂子	大貫 とめよ
秋月 英美	石井 弘志	島山 尚	今井 和代	(15回生)
阿部 剛	佐藤 仁子	首藤 光春	(11回生)	阿部 博子
猪狩 和子	高村 多恵子	鈴木 健司	渡辺 みよ	西村 千紗子
大木 郁子	高橋 勉	梅見 和子	菊地 保夫	今井 恵子
加藤 英子	坂本 幸久	御牧 道子	後藤 清	後藤 誠
河野 不二子	渡邊 寛治	吉田 瑛子	後藤 永子	鈴木 幸子
後藤 久男	小松 悦子	松田 勝治	(12回生)	木野田 康子
小林 敬子	三澤 和子	市川 洋子	今井 あい子	阿部 克子
坂本 武久	(6回生)	(9回生)	岡崎 好子	村山 由希子
佐々木 真	鈴木 季子	高橋 紀子	蟹澤 昭子	星澤 晋
武山 勝	末永 敏郎	飯田 勝紀	岡崎 国男	今野 和子
立岡 寿美子	谷津 澄子	鹿野 文二郎	掛 経子	(16回生)
水澤 昇	清水 秀昭	小泉 勝子	村上 秀一	森岡 芳郎
結城 常明	細川 金子	青山 さわ	後藤 利男	加藤 和子
(4回生)	中村 繁子	滝川 勇	西條 修	葉 良枝
三浦 貞夫	藤澤 俊	田嶋 美子	吉田 義男	岡 康博
金野 和夫	(7回生)	滝川 喜久子	森田 光子	藤田 美智子
平山 穂	荒 信子	増 良子	門馬 糸子	渡辺 啓子
加藤 利光	小国 常雄	菊地 正	(13回生)	(17回生)
阿部 剛夫	藤部 孝三	喜友名 典子	赤塚 誠哉	西條 充郎
森田 享子	北川 貴恵子	伊藤 幸子	北島 昭	(20回生)
菅井 みな子	田上 富美子	森山 拓	勝島 節子	中村 直子
河崎 昌子	芳賀 鑑夫	(10回生)	末永 宏	花松 五穂
大熊 正子	橋谷 圭子	本田 生子	植草 良子	山川 恵利子
(5回生)	橋本 洋二	菅ノ又 桂子	藤村 綾美	(25回生)
遠藤 明夫	廣瀬 知子	加藤 幸子	(14回生)	横野 照子
猪股 昌子	(8回生)	川野 澄子	小川 孝三郎	菅野 富美子
上原 藤三	阿部 徳雄	濱 道子	若狭 公子	(34回生)
井上 勝夫	高嶋 展廣	矢沢 節子	山中 圭子	星野 知倫

感想・ご意見をお寄せください

会員の皆様から年会費のご協力をいただくようになったのは一昨年の平成15年から。初年度の平成15年度は、182名。昨年の平成16年度は、右記の142名の方からご協力をいただきました。母校・石巻中学校と東京・石中会のみますの発展のために、今年も多くの方の協力を期待しております。

この「東京・石中会だより」を読んだ感想やご意見あるいは東京・石中会そのものについてのご意見など、皆様の声をお寄せください。皆様からの声をおねに、広報委員一同さらなる飛躍を目指して頑張りたいと意欲満々です。

皆さまからの投稿をお待ちしております

中学校時代のことや石巻での思い出、最近石巻を訪れて思ったことなど、何でも結構です。皆様からの投稿をお待ちしております。

宛先：東京・石中会 事務局
阿部 剛夫 〒349-0115
蓮田市蓮田270



第4回 東京・石中会 10月16日(日) 開場：11:30 開宴：12:00

ニュートーカー 数寄屋橋本店 9階「ラ・ステラ」千代田区有楽町2-2-3

事務局だより

もう早いもので、東京石中会を立ち上げてから第4回目の総会を迎えようとしています。

母校に対して「何をなすべきか」「何ができるのか」の命題について「先輩の課外授業」との回答を得ました。当面はこの方針で活動したいと考えています。何をやるにもお金が必要で。

そこで、皆様には是非とも、000円の年会費を納入していただいて、東京石中会の発展にご協力下さい。

今年の総会も近づいてきました。今回も約700通の案内状を皆様にします。特に今回は、広報委員会の活躍で会報「東京・石中会だより」の創刊号ができました。

この会報を皆様にお送りします。会報をご覧になって、ご意見等を寄せていただければと思います。

現在、事務局が把握している名簿は第3回生から第25回生までです。その中で、第17回生、18回生、19回生、21回生、22回生、23回生、24回生については、ごく一部分しかありません。上記の回生の名簿をお持ちの方は、事務局まで送っていただければと思います。

おわりに、事務局員が手薄で困っています。特に若手の方に事務局の仕事を手伝っていただきたいと思っています。自薦他薦大いに歓迎しますのでご一報ください。心より願います。

編集・広報委員会スタッフ

委員長 井上勝夫
委員 首藤光春
委員 鈴木健司